

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン コマザワガクエン 学校法人 駒澤学園								
フリガナ大学の名称	コマザワジョシダイガク 駒沢女子大学 (Komazawa Women's University)								
大学本部の位置	東京都稲城市坂浜238番地								
大学の目的	<p>本学は、道元禅師の禅を建学の精神とする伝統をふまえ、国際化・情報化の進展、女性の社会参加の拡大など、急速な社会構造の変化にのぞみ、十分に自己を實現し、新しい文化の創造的担い手となる人間性豊かな現代女性を養成することを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>自己を見つめ、他者への思いやるこころ、すなわち禅のこころを備え、科学的根拠と専門的知識・技術に基づいた判断力と探究心をもち備えた看護実践者の育成を目的とする。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	看護学部 (Faculty of Nursing) 看護学科 (Department of Nursing) 計	年	人	年次人	人	学士 (看護学)	平成30年4月 第1年次	東京都稲城市 坂浜238番地	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>人文学部（廃止） 日本文化学科 (△60) (3年次編入学定員) (△10) 国際文化学科 (△120) (3年次編入学定員) (△20) 人間関係学科 (△60) 心理学科 (△90) 住空間デザイン学科 (△60) ｽﾍﾞｲ表現学科 (△60) ※平成30年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は平成32年4月学生募集停止)</p> <p>人間総合学群（新設） 人間文化学類 (170) (3年次編入学定員) (20) 観光文化学類 (60) (3年次編入学定員) (10) 心理学類 (80) 住空間デザイン学類 (60) ※平成29年4月届出予定</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	看護学部看護学科	講義	演習	実験・実習	計				
		46科目	38科目	13科目	97科目	128 単位			

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
新設	看護学部	看護学科	11人 (6)	5人 (4)	9人 (6)	7人 (4)	32人 (20)	2人 (2)	55人 (27)
	人間総合学群	人間文化学類	14 (14)	5 (5)	6 (6)	— (—)	25 (25)	— (—)	141 (141)
		観光文化学類	4 (4)	3 (3)	— (—)	— (—)	7 (7)	— (—)	127 (127)
		心理学学類	8 (8)	3 (3)	1 (1)	— (—)	12 (12)	— (—)	124 (124)
		住空間デザイン学類	7 (7)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	12 (12)	— (—)	141 (141)
		計	44 (39)	18 (17)	17 (14)	9 (6)	88 (76)	2 (2)	— (—)
既設分	人間健康学部	健康栄養学科	9 (9)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	16 (16)	6 (6)	32 (32)
		計	9 (9)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	16 (16)	6 (6)	— (—)
	合計		53 (48)	21 (20)	20 (17)	10 (7)	104 (92)	8 (8)	— (—)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		39人 (38)		20人 (20)		59人 (58)		
	技術職員		0 (0)		5 (5)		5 (5)		
	図書館専門職員		1 (2)		1 (1)		2 (3)		
	その他の職員		0 (0)		1 (1)		1 (1)		
	計		40 (40)		27 (27)		67 (67)		
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	1,867.94 m ²	140,991.11 m ²		8,771.79 m ²		151,630.84 m ²		
	運動場用地	0 m ²	12,574.38 m ²		0.00 m ²		12,574.38 m ²		
	小計	1,867.94 m ²	153,565.49 m ²		8,771.79 m ²		164,205.22 m ²		
	その他	0 m ²	36,595.26 m ²		0 m ²		36,595.26 m ²		
	合計	1,867.94 m ²	190,160.75 m ²		8,771.79 m ²		200,800.48 m ²		
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計				
		4,279.81 m ² (4,279.81 m ²)	22,859.06 m ² (22,859.06 m ²)		19,797.95 m ² (19,797.95 m ²)		46,936.82 m ² (46,936.82 m ²)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		
	45室	20室	37室		3室 (補助職員 2人)		1室 (補助職員 0人)		
専任教員研究室	新設学部等の名称			室数					
	看護学部	看護学科	32室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	看護学部看護学科	4,048 [132] (4,048 [132])	38 [11] (38 [11])	4 [1] (4 [1])	125 (125)	5,094 (5,094)	272 (272)		
	計	4,048 [132] (4,048 [132])	38 [11] (38 [11])	4 [1] (4 [1])	125 (125)	5,094 (5,094)	272 (272)		
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数					
	4,489 m ²	325席		237,000冊					
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	1,726 m ²	テニスコート3面		屋外プール					

平成29年度
4月届出

校舎敷地の一部及び運動場
用地は、駒沢女子短期大学
と共用
(短期大学必要校地面積：
2,600m²)

校舎の一部は、駒沢女子短期
大学と共用
(短期大学必要校舎面積：
2,850m²)

大学全体

申請学部全体

大学全体での
共用分を含む
図書 662冊

大学全体

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル、データベースの費用を含む。	
		教員1人当り研究費等			360千円	360千円	360千円	360千円	－千円		－千円
		共同研究費等			100千円	100千円	100千円	100千円	－千円		－千円
		図書購入費	21,894千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円		2,500千円
	設備購入費	206,026千円	300千円	300千円	300千円	300千円	300千円	300千円	300千円		
学生1人当り納付金	第1年次		第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,800千円		1,600千円	1,650千円	1,650千円	－千円	－千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等								
既設大学等の状況	大学の名称 駒沢女子大学										
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	人文学部	年	人	年次人	人		倍				
	日本文化学科	4	60	3年次 10	260	学士 (日本文化)	0.95	平成 5年度	東京都稲城市 坂浜238番地		
	国際文化学科	4	120	3年次 20	520	学士 (国際文化)	0.71	平成 5年度			
	人間関係学科	4	60	－	240	学士 (人間関係)	1.03	平成 12年度			
	心理学科	4	90	－	360	学士 (心理)	0.96	平成 25年度			
	住空間デザイン学科	4	60	－	240	学士 (住空間)	1.12	平成 14年度			
	メディア表現学科	4	60	－	240	学士 (メディア)	0.6	平成 14年度			
	人間健康学部										
健康栄養学科	4	80	－	320	学士 (健康栄養)	1.06	平成 21年度				
大学の名称 駒沢女子大学大学院											
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地			
人文科学研究科	年	人	年次人	人		倍					
仏教文化専攻	2	5	－	10	修士 (文学)	0.10	平成 14年度	東京都稲城市 坂浜238番地			
臨床心理学専攻	2	20	－	40	修士 (心理学)	0.37	平成 15年度				
大学の名称 駒沢女子短期大学											
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地			
保育科	年	人	年次人	人		倍					
	2	130	－	260	短期大学士 (保育)	0.94	昭和 40年度	東京都稲城市 坂浜238番地			
附属施設の概要		－									

教育課程等の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	教養科目	仏教学Ⅰ	1前	2			○			1						
		仏教学Ⅱ	1後		2		○			1						
		倫理学	1前		2		○									兼1
		心理学	1前		2		○									兼1
		教育学	1後		2		○									兼1
		社会学	1後		2		○									兼1
		憲法	1前		2		○									兼1
		人間と思想	1前	2			○									兼1
		文学への誘い	1前		2		○									兼1
		文化人類学	2前		2		○									兼1
		生命倫理と法	2後	2			○									兼1
		基礎科学	1前		2		○									兼1
		統計学	1前		1		○									兼1
	コミュニケーションの理解と技能	英語Ⅰ(リーディング)	1前	1				○								兼3 共同
		英語Ⅱ(ライティング)	1後	1				○								兼3 共同
		英語Ⅲ(リスニング)	2前	1				○								兼3 共同
		英語Ⅳ(看護のための英会話)	2後	1				○								兼1
		基礎ドイツ語Ⅰ	1前		1			○								兼1
		基礎ドイツ語Ⅱ	1後		1			○								兼1
		情報と科学/情報処理	1前		1			○								兼1
		言語表現演習Ⅰ	2前	1				○								兼1
		言語表現演習Ⅱ	2後		1			○								兼1
	スポーツと健康	スポーツⅠ	1前		1			○								兼1
		スポーツⅡ	1後		1			○								兼1
	基礎ゼミ	基礎ゼミⅠ	1前	1				○		11	5	9	3	0		共同
		基礎ゼミⅡ	1後	1				○		11	5	9	3	0		共同
小計(26科目)		—	13	25	0		—		11	5	9	3	0		兼19	
専門基礎科目	健康と生活	発達心理学	2前		2		○								兼1	
		臨床心理学	3前		2		○								兼1	
		人間関係論	3前	1				○			1	1				オムニバス
		公衆衛生学	3前	1				○								兼2
		健康教育学	2後		2			○		1						
		疫学/保健統計Ⅰ	2後	2				○								兼1
		疫学/保健統計Ⅱ	4後		2			○								兼1
		保健医療福祉行政論	2前	2				○								兼1
	健康と医療	人体の構造と機能Ⅰ	1前	1				○								兼1
		人体の構造と機能Ⅱ	1後	2				○								兼1
		生化学	1後	2				○								兼1
		臨床栄養学	2前	2				○								兼1
		臨床薬理学	1後	2				○								兼1
		臨床病態学	2前	1				○								兼1
		微生物学	1前	2				○								兼2 オムニバス
		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)	1後	2				○								兼4 オムニバス
		疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)	2前	2				○								兼3 オムニバス
		疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)	2後	2				○								兼2 オムニバス
		疾病と治療Ⅳ(母性)	2前	1				○								兼3 オムニバス
		疾病と治療Ⅴ(小児)	2前	1				○								兼1
		疾病と治療Ⅵ(精神障害)	2後	1				○								兼1
小計(21科目)		—	27	8	0		—		1	1	1	0	0		兼26	

教 育 課 程 等 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	看護の基本	看護学概論	1前	1			○			1						
		看護理論	2前	1			○			4	0	1				オムニバス
		看護援助論	1通	2			○			2	0	2		1		オムニバス
		生活援助技術	1通	2				○		2	0	2		1		オムニバス・共同(一部)
		フィジカルアセスメント	2前	1				○		1	0	2		1		オムニバス・共同(一部)
		診療・治療援助技術	2前	2				○		2	0	2		1		オムニバス・共同(一部)
		看護過程	2後	1				○		1	0	2		1		オムニバス・共同(一部)
	ライフステージと看護	母性看護学Ⅰ	2後	2			○			1						
		母性看護学Ⅱ	3前	2				○		2	1	1				オムニバス・共同(一部)
		小児看護学Ⅰ	2後	2			○			1						
		小児看護学Ⅱ	3前	2				○		1	1	1	1			オムニバス・共同(一部)
		成人看護学Ⅰ(概論)	2前	2			○			2						オムニバス
		成人看護学Ⅱ(急性期)	2後	2				○		2	2	2	1			オムニバス・共同(一部)
		成人看護学Ⅲ(慢性期)	3前	2				○		2	2	2	1			オムニバス・共同(一部)
		老年看護学Ⅰ	2前	2			○			1						
		老年看護学Ⅱ	3前	2				○		1		1	2			オムニバス・共同(一部)
	看護の統合	精神看護学Ⅰ	2後	2			○				0	1				
		精神看護学Ⅱ	3前	2				○			0	2				オムニバス・共同(一部)
		在宅看護学Ⅰ	2後	2			○			1						
		在宅看護学Ⅱ	3前	2				○		2		1				オムニバス・共同(一部)
		地域看護学概論	1後	1			○									兼1
		公衆衛生看護学概論	4前		1		○				1	0	1			オムニバス・共同(一部)
		地域看護活動論	3前	2			○			3	1	1				オムニバス
		公衆衛生看護技術論	4前		2			○			1	0	2			共同
		学校保健活動論	3前		1		○									兼1
		産業保健活動論	3前		1		○				1					
		公衆衛生看護管理論	4後		1		○				1	0	2			オムニバス・共同(一部)
		家族看護学	4後		1		○									兼1
		感染看護学	2前	1				○		1						
		健康と食事	3前	1				○				0	1			兼2 オムニバス・共同(一部)
チーム医療	4後		1		○			10	5	9	7			共同		
医療安全	4後	1			○									兼1		
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1				○		2	0	2		2		共同	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2				○		2	0	2		2		共同	
	母性看護学実習	3後～4前	2				○		2	1	1				共同	
	小児看護学実習	3後～4前	2				○		1	1	1	1			共同	
	成人看護学急性期実習	3後～4前	3				○		1		1	1	1		共同	
	成人看護学慢性期実習	3後～4前	3				○		1	2	1				共同	
	老年看護学実習Ⅰ	2前	1				○		1		1	2			共同	
	老年看護学実習Ⅱ	3後～4前	3				○		1		1	2			共同	
	精神看護学実習	3後～4前	2				○			0	2		1		共同	
	在宅看護学実習	3後～4前	2				○		2			1	1		共同	
	看護学統合実習	4前	2				○		10	5	9	7			共同	
	学校・産業保健実習	4後		2			○			1	0	2			共同	
	公衆衛生看護学実習	4後		3			○			1	0	2			共同	
	看護の発展	看護管理学	4後	1			○									兼3 オムニバス
国際保健		4後		2		○				1						
災害看護学		4後		2		○									兼1	
看護研究Ⅰ		3後	1				○		6	0	0	0			オムニバス・共同(一部)	
看護研究Ⅱ		4通	2				○		10	5	9	3			共同	
小計(50科目)		—	69	17	0	—			10	5	9	7	2		兼10	
合計(97科目)		—	109	50	0	—			11	5	9	7	2		兼55	

別記様式第2号(その2の1)

学位又は称号	学士(看護学)	学位又は学科の分野	保健衛生学関係(看護学関係)	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> ・教養教育科目(26科目):22単位以上(必修13単位、選択9単位以上)を修得すること。 ・専門基礎科目(21科目):31単位以上(必修27単位、選択4単位以上)を修得すること。 ・専門科目(50科目):75単位以上(必修69単位、選択6単位以上)を修得すること。 ・卒業要件:単位合計128単位以上(必修109単位、選択19単位以上)を修得すること。 ・履修科目の登録の上限:一学年において履修できる単位数は48単位以下とする。 <p>* 保健師国家試験受験資格取得には卒業要件を満たし、教養教育科目から「憲法」「統計学」「情報と科学/情報処理」「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」の5科目、専門基礎科目から「健康教育学」「疫学/保健統計Ⅱ」の2科目、専門科目から「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護技術論」「学校保健活動論」「産業保健活動論」「公衆衛生看護管理論」「家族看護学」「学校・産業保健実習」「公衆衛生看護学実習」「災害看護学」の9科目を修得すること。 (単位数合計137単位以上)</p>			1学年の学期区分	2学期
			1学期の授業期間	15週
			1時限の授業時間	90分

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部 看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	教養科目	仏教学Ⅰ	本講義は、最初に駒沢女子大学の建学の精神である行学一如について学び、この建学の精神の基礎となる、仏教の開祖釈尊の生涯と教えについて学ぶ。また道元禅師の生涯と教えについても学び、その禅の教えが私たちの生活にどのように関わり合ってくるのか、『典座教訓』などの著作を通じて理解する。仏教行事の意義を概説する。なお坐禅実習も行うとともに、駒沢女子大学で学ぶことの意義について学習する。あわせて坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も学習する。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養を身につける。	
		仏教学Ⅱ	仏教は、さまざまな形で日本の文化と融合し、日本社会に大きな影響を及ぼしてきた。とりわけ道元禅師をはじめとする禅宗の人々は茶道や華道、あるいは武道といった日本の伝統的文化に大きな影響をもたらしている。本講義では、こうした日本文化に大きな影響を与えた禅宗の教えをはじめ、浄土思想や密教思想をも射程にのびて日本の仏教文化について理解する。また、仏教の教えは日本人の自然観や死生観にも影響を与えており、こうした日本人の精神文化も理解する。あわせて坐禅実習を行い、日常の礼儀作法も身につける。	
		倫理学	社会におけるさまざまな規範の根拠や自分の規範的判断の理由を考えることを通し、他者の納得できる形で表現するための能力を身につける。また、倫理学の基本を学んだ上で、安楽死、尊厳死、脳死、臓器移植、生殖医療等の医療倫理上の問題に関する理解を深め、複雑かつ多様な看護実践上の倫理的問題・課題の解決に向け、様々な倫理的意思決定の方法について学習し、事例に基づき、理論的根拠を明らかにした上で、それぞれの問題に対する自己の見解・論拠を説明できる能力を身につける。	
		心理学	人間を理解するための基礎として、人間の心理や行動の仕組みとその背景を学習し、人間や自分についての理解を深め、人間に対する幅広い視点を育てる。また、この学習を通して、人間関係の基盤となる自己理解および自己統制、他者への理解を深める。加えて、現代心理学の動向をふまえて、教育心理学・社会心理学・臨床心理学・発達心理学・医療心理学等の心理学各分野の代表的な理論や知見を学ぶことにより、看護の対象となる人々に対し、「その人」の経験をそのまま理解でき、全体として「その人」の人間性を尊重できる姿勢を育む。	
		教育学	人間の生活、人生における「教育」の持つ意味を理解し、自己の学習能力を高め、生涯にわたり学ぶ姿勢を養うことを目的とする。「教育の意味と位置づけ」「家庭教育」「学校教育」「生涯教育」「キャリア教育」「教育の目標と評価」などの学習内容をもとに、家族や地域社会、学校における「教育」の実際と役割について考察できることをねらいとする。さらに、医療や福祉の現場で展開されている「教育」の実際を知ることにより、自らの生涯教育、キャリア教育をも含めた多様な「教育のあり方」について考える手がかりとし、専門職として自己成長するための方法を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部 看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 教養科目	社会学	ものごとを社会の中で多角的に、ときに批判的に見る社会学的な見方・捉え方、先人たちによって得られた社会に関する知識・見識、いまだ明らかにされていない事象を知るために社会調査・社会研究の技法などを習得することを目標とする。社会人・職業人として必要な基礎的な教養・素養を身につけ、社会の中で生活し、社会を構成している人々の健康増進、健康の回復、幸福な人生を支援する看護職の社会における位置づけと役割、健康と看護と社会とのかかわりを考える力を身につける。	
	憲法	我々の生活する社会のさまざまな規範やルール、社会生活上の秩序となる「法」について学ぶ。法と法律の特質、目的、分類、裁判制度となる法の解釈や運用の問題を理解する。また、日本における憲法制度の歴史とその背景を学習し、憲法の基本原則、国民の権利、義務等について理解を深める。さらに我国の法の基本概念を学び、そのポイントを把握する。これらの学習を通し、法律の知識を身につけ、社会生活を営む上で、有効に活用できる方法を学習する。	
	人間と思想	人間の存在意義や本質はどのようなものかについて、古代から現代の代表的な哲学者たちの思考を理解し、共有することを通じて、ものごとを根本的に考えることをめざす。また、哲学の体系的な事象（形而上学や倫理学などの学問分類や、哲学史という理解のあり方など）を学ぶと共に、現に生活している我々の身近な課題（愛、他者、生きること、価値、道徳等）の問題などの具体的事象を取り上げ、哲学的知識を実践に役立てる方法を学習する。	
	文学への誘い	複数の文学作品に触れることで、作者の意図を正しく読み取りながら、作品に込められた作者の精神世界を創造できる感性をはぐくみ、共感力を高め、さらには物事に対する思考や価値観の幅を広げることがをねらいとする。また、文学作品の中に表現される豊富な語彙に触れることにより、豊かな表現能力や論理展開能力を身につける。	
	文化人類学	文化人類学の基本的な考え方を知り、自らと異なるもの（異文化）に関心をもち、その理解にむけて、偏見にとらわれず考えてゆく姿勢や自文化や自己の固定観念を問い直すことに気づくことを目的とし、われわれの日常の行為や認識を、異文化の諸相を知ることから再認識することを目指す。人の一生を通じて出会う現代の課題、儀礼や世界観に焦点をあて、世界の様々な文化を考察することを通し、異文化や他者をよりよく理解するための能力を養う。	
	生命倫理と法	進歩する高度な医療技術は現代社会において生と死の意味を変容させ新たな倫理問題の実際を知り、医療現場における「倫理」の問題に真摯に向き合う態度を養う事をねらいとする。生命倫理に関する法律をはじめ、現代の医療技術がもたらす生命倫理の問題を考察し、生命の尊厳と生きる意味について学ぶ。また、医療の分野に密接に関わるパターナリズム、自己決定権、パーソン論、QOLとSOL等、生命倫理の基礎的概念を理解し、多くの事例を通して「よく生きる」とはどういうことなのかについて自ら考える機会とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基礎科学	自然科学の基本となる生物学・化学・物理学に関する基礎的な知識や法則を理解する。①細胞の構造および機能、発生や遺伝等について理解した上で生物の生命現象の普遍性、法則性を理解することを目的とする。②生命現象を理解する一環として、物質を構成している原子や分子の構造や特徴を知り、生体機能を化学的にとらえ、化学の知識、技術がどのように医療へ応用されているかを学ぶ。分子の骨組み、官能基、立体構造、糖質、脂質、アミノ酸とタンパク質、核酸等、食品や生体物質を構成している有機化合物の化学的性質を学習する。また、医療における化学の必要性、化学と医療の関わりについて学習する。③物理学特有の原理からものごとを問い直し、論理的に考える姿勢や実証的姿勢を身につけることを目標とする。特に運動の法則、波動現象、ベクトル、摩擦現象等、看護実践に必要となる基礎的知識を身につける。	
		現代社会に満ち溢れている多種多様な情報を正確に理解することをねらいとする。統計解析の基本的な概念、統計を扱うための正しい知識を身につけることにより、実社会の事象に対する論理的、客観的分析能力を修得する。自然科学、社会科学などにおいて得られる種々のデータの意味、データの見方・考え方を理解し、日常的に存在する問題を解決に導くための適切なデータ収集と整理、正確な情報の解釈と判断、データ分析、必要とする情報を的確に抽出するためのガイドラインおよび方法を学習する。	
コミュニケーションの理解と技能	英語Ⅰ（リーディング）	国際化の進む現代社会において広く知識や情報を得るためには外国語は必須のコミュニケーション手段となる。国際語となっている英語については「読む力・書く力・聞く力・話す力」を総合的に向上できるよう様々な医療現場を想定した役立つ英語を習得することを目標とする。英語Ⅰでは、「読む力」を身につけ、身近にある英語短編小説などを用いて異文化理解と医学用語の読み取りと解釈する力を身につける。学生個々の能力に応じて学習できるよう少人数クラスを編成して行う。	共同
	英語Ⅱ（ライティング）	英語Ⅰのリーディングに引き続き、総合的に向上できるよう様々な医療現場を想定した役立つ英語を習得することを目標とする。英語Ⅱでは、特に「書く力」に重点を置き、看護の対象となる人々への健康促進および教育的支援のための英語資料が作成できる力を身につける。学生個々の能力に応じて学習できるよう少人数クラスを編成して行う。	共同
	英語Ⅲ（リスニング）	英語Ⅰ、Ⅱに続き、総合的に向上できるよう様々な医療現場を想定した役立つ英語を習得することを目標とする。英語Ⅲでは、ロールプレイを取り入れながら、日常生活場面や看護場面での言葉や専門的語彙を聞き取れる力を学習し、看護の対象となる人々の訴えを「聞きとる力」を身につけることを目指す。学生個々の能力に応じて学習できるよう少人数クラスを編成して行う。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部 看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 コミュニケーションの理解と技能	英語Ⅳ (看護のための英会話)	この科目では、英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学びの集大成として、日常生活や医療現場で実践できる英会話フレーズを用いて外国人とのコミュニケーションを図り、英語で対応できる力を身につける。また看護場面を英語で学生が作成し、ロールプレイやプレゼンテーションをおこない、英語で患者の思いや医療・看護に関する課題について意見交換できることを目指す。さらに将来、留学希望学生への支援（TOEFL Score 450）を図る。	
	基礎ドイツ語Ⅰ	ドイツ語はドイツ、オーストリア、スイスの一部地域などで話されている言語であるが、本科目では「標準語」を原則とし、ドイツ語発音の基本的ルールをマスターする。また、基礎的な発音と文法の概略を理解することで、ドイツ語という言語の全体の仕組みが大まかに眺め渡せるようにする。さらに、ドイツ語文化圏の社会事情や文化を理解し、異文化への関心と理解を深めることを目標とする。	
	基礎ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅱではドイツ語Ⅰに引き続き、日常生活に即した基礎的なコミュニケーション・会話を中心にドイツ語の基礎を身につけ、実用的に運用できる語学力を養成する。初級文法を復習しながら、日常的な会話、ヒヤリング、文章読解の練習を行う。平易で日常的なドイツ語表現に触れながら、身の回りのことがらを基礎的な表現・語彙を用いて表現でき、辞書を用いてドイツ語の文章が読めることを目標とする。	
	情報と科学/情報処理	情報化社会を生き抜くためにICT（Information and Communication Technology）活用スキルを獲得することを目的として、「情報とは何か」を知り、情報の「信頼性」「活かし方」「守り方」としての情報倫理を学ぶ。さらに研究によって新しい情報を生み出すため、情報の収集・整理・基礎統計、および、発表する手段と広め方を学び、ICTにまつわる仕組みを習得する。	
	言語表現演習Ⅰ	話し言葉と書き言葉における日本語運用の基本など、日本語の基本的構造を理解し、日本語の多様な表現を実践的に学び、自分の思いを適切な言葉遣いで表現する基礎力、日本語を論理的にかつ明確に文章化する力を身につける。さらに、語彙力や文章理解力を高め、正しい日本語を用いた正確な文章を作成できるようになることをねらいとする。	
	言語表現演習Ⅱ	言語表現演習Ⅱでは、自分の考えや意見を他者に説明・発表し、発表内容について議論を交わす過程を通し、自分の考えを明確に表現する能力、他者の意見を取り入れながら新たな自分の考えを再構築する能力の獲得めざす。テーマに関する自分の考えを論理的にまとめ、自分の考えを他人に的確に伝えられる技術を習得できるよう、実際にまとめた文章を書く、発表する練習を行う。また、発表の場を通し、話し言葉に関する問題なども取り上げ、幅広い言語能力の向上を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	スポーツと健康	スポーツⅠ	スポーツ・運動が健康にどのように関連しているか、医科学的な背景を学びながら授業を通して体験する。スポーツ実践を通じて心拍数の指標とする運動強度の考え方や家庭でできる筋力トレーニング法などは臨床現場での応用につなげることができる。生涯にわたり心身の健康を維持し、より健康的な状態および健康的な生活を実現及び支援するための基礎的知識と方法を習得するとともに、スポーツの実践を通し、仲間とのコミュニケーション、チームワークの重要性を学習する。将来の「自分」を見据えて「健康」についての意識を高め、健康保持増進のための実践方法を身につける。	
		スポーツⅡ	スポーツⅡでは、体力の向上や健康の維持・増進、生活習慣病や慢性疾患の予防・治療に効果的な運動処方・療法の基礎として、スポーツ行動の科学的知見が有効であることを、実践を通じて理解し、その具体的方法を習得することをねらいとする。さらに、楽しみながら、自立して、習慣的に体力づくり・健康づくりが実施できる能力の獲得をめざす。将来の「自分」を見据えて「生活習慣病」予防についての意識を高め、生涯スポーツ、運動習慣の重要性を学ぶ。	
	基礎ゼミ	基礎ゼミⅠ	大学生活を始めるにあたり大学で学ぶことの意義を学び、その上で自分でテーマを決め、自主的に学問探究を進めていくための基本的な技術と姿勢を身につける。ゼミは少人数授業で行い、グループに分かれて担当教員の指導を受ける形式で最初は進める。時には他学部との学生と一緒に共通課題について討議する場を設け、多様な視点の発見を通して刺激を受け、価値観の違いや思考力を養い、かつ学部間を超えた学生同士の理解を深める。1グループ6名程度のグループを編成し、各グループ2名の教員が担当する。	共同
		基礎ゼミⅡ	ゼミⅠに引き続き、大学での学びを充実させるための技術と姿勢を学ぶ。ゼミⅡでは、提示された課題のみならず、個人またはグループにおける関心ある課題について問題提示し、その背景を文献検索し、よく読み解釈した内容をまとめ、発表し、討議する。この過程を通して大学で学ぶことの意義を体験し、能動的に学習することの面白さを体得する。この科目では、学生がイニシアティブをとり、積極的にゼミ生と教員との交流を深め、討議をとおして言葉使い・態度・礼儀など含めた教養を高めることを自然に身につけるようにする。1グループ6名程度のグループを編成し、各グループ2名の教員が担当する。	共同
専門基礎科目	健康と生活	発達心理学	生涯発達の視点で胎児期から老年期にわたって、発達の特徴とそれに関する理論を概観し、心身の発達の特徴とプロセス、発達に影響を与える諸要因および関連性を理解する。乳児期から老年期までの発達的な人間理解を基に、様々な発達段階での心理的問題について考える力を習得する。行動や思考の形成の道筋や心理的適応のメカニズムを理解することで、心の健全な成長のために必要な条件とは何かを学ぶ。	
		臨床心理学	臨床心理学の歴史背景を踏まえ、臨床心理学とは何かを学ぶ。また、心理療法の諸理論および行動観察や面接・心理検査によるアセスメントの視点と方法、自律訓練法、認知行動療法、薬物療法などの治療の実際を知り、保健医療領域において、支援を必要とする人々と適切な支援の方法を学習する。これらの学習により、基本的な心の働きの知識、人の変化の原理の理解を深め、看護場面で対象者の支援に活かすことのできる基礎的知識を身につける。	

		授 業 科 目 の 概 要		
		(看護学部 看護学科)		
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 基礎 科目	健康 と 生活	人間関係論	人間関係の形成に関する理解を深め、人間の発達過程における対人関係の重要性を知るとともに、人間関係における社会的相互作用、自己理解のための理論を理解する。また、自己理解を深め、対象との良好な関係づくりの基盤となるコミュニケーションの基礎的技術を学び、多様な価値観を持つ人々と人間関係を良好に保つ能力を身に付ける。 (オムニバス方式/全15回) (13奥井良子/8回) 人間関係に関する理論、人間関係成立のプロセス等を担当 (6松尾真規子/7回) コミュニケーション技術、グループ演習を担当	オムニバス方式
		公衆衛生学	公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学習し、集団の疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等、保健予防・医療に関する知識を習得する。また、主要疾患の現状と予防、衛生行政、医療制度、地域保健、母子保健、高齢者保健、学校保健、産業保健、医療、福祉等の状況、食品衛生、感染症予防などについて、各種統計資料を参考にしながら、保健統計指標の動向や意義を理解する。また、保健医療行政などの保健・医療システムについて、社会構造の変化を捉えた健康増進実践活動としての健康サービス、疾病のコントロールとヘルスプロモーションの考え方を習得する。 (オムニバス方式/全8回) (62松木秀明/6回) 公衆衛生の理念と目的、主要疾患の現状と予防、衛生行政、医療制度、地域保健、学校保健、産業保健等の保健・医療システムについて講義を担当する (34井上浩一/2回) 食品衛生、疾病コントロールとヘルスプロモーションの考え方の講義を担当する。	オムニバス方式
		健康教育学	健康教育の概念を理解し、医療現場、地域、学校の各領域における健康教育について学ぶ。個人の健康行動を変える教育活動に加え、組織のプログラム、政策、財政支援、環境的活動、マスメディアなどの影響について学ぶ。さらに、保健信念モデル、計画的行動理論、ヘルスリテラシー、社会的認知理論など、健康教育と健康行動における理論と実践の連携について学習する。	
		疫学/保健統計Ⅰ	疫学の目的、対象、方法を理解し、疫学・統計学の基本的知識を身につける。人間集団の健康水準及び疾病異常に関与する要因、人々の健康・生命に関連する生活習慣や環境と疾病の発生、治療と症状の改善などの因果関係を推論するために実施されている疫学研究のデータや調査の結果の読み方およびその活用方法を学習する。また、地域における健康水準の向上に役立てる解決策を見いだす方法について理解し、保健活動における統計の意義について学ぶ。	
		疫学/保健統計Ⅱ	疫学/保健統計Ⅰの学習をふまえ、保健統計に関する各種データの処理方法や解析方法について学習する。疫学的調査や研究を正しく実施し、その結果に基づいた正しい意志決定を行うための基本的知識を身につける。また、保健統計資料の収集とその活用方法について理解し、応用ができるようになることを目指す。地域における保健予防対策の企画、立案および評価のための基礎的能力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	健康と医療		
	保健医療福祉行政論	急速な少子化、超高齢化、核家族化などの社会構造の変化、また生活習慣病など疾病構造の変化に伴う、医療保険、介護保険、公費負担制度など社会保障制度の歴史的な変遷について学習する。また、保健医療福祉行政は、住民の安心で安全な生活を支援し、人々が健康で暮らしやすい地域づくりを目的にした公な活動である。この科目では、法律、制度に伴う行政の仕組みと役割、政策理念等の基礎的な知識を習得し、地域の健康課題を解決するための社会資源の開発や施策化のプロセス、地域保健計画の推進と評価等について学習し、地域と医療機関との連携において看護職として期待される役割を理解することを目的とする。	
	人体の構造と機能 I	人間のからだの構造としくみを知ることは医学・看護学を学ぶ上で最も基礎となる科目である。それは私たちの身体の健康は正常な身体の形とそれに備わった正常な働きの上に成り立っているからであり、そのことを理解する必要がある。身体を構成している各器官は、それぞれに独立して働いているのではなく、互いに密接なつながりの中でそれぞれの役割を果たしている。ここでは人体の正常な形態と構造（解剖学）についての基礎的な知識を学び、器官相互のつながりや身体全体がどのように維持されているかを理解する。I では主に人体の構造を学習する。	
	人体の構造と機能 II	人間の構造と仕組みの知識をもとに、消化、呼吸、感覚等の生命の機能を学習し、深く理解できるようにする。また、各臓器や組織が相互に密接に関連しながら機能し、調節しながら、個体全体として統合的な働きや生命活動を行うしくみを学ぶ。看護の対象となる人々の健康状態を評価する上で欠くことのできない生命活動との関連性を理解し、それらの知識を連携・統合し看護に応用できる力を身に付けることを目的とする。	
	生化学	人間が生きていく上で必要とする栄養素をからだの中でどのように代謝し、利用し、排泄するのかについて分子レベルで理解することをねらいとする。具体的には、①生体の三大栄養素である糖質・脂質・タンパク質の構造とアセチルCoAを中心とした糖質・脂質・タンパク質の代謝について学び、病態との結びつき②ビタミンの種類と生理作用③ホルモンと生理活性物質（サイトカインなど）の情報伝達の仕組みや内分泌疾患との結びつき④遺伝子発現とタンパク質の生合成の仕組みと先天性（遺伝子）異常とこれらの異常が疾患や病態へどのように関係しているのかについて学習する。	
臨床栄養学	臨床における栄養の意義を学び、疾病の治療・予防や健康の維持・増進との関連性についておよびライフステージに応じた栄養管理を理解することを目標とする。栄養素の代謝、人体解剖の仕組み、生理機能、病因などを学習し、疾病予防のための栄養管理、膠原病、悪性疾患（がん）、高血圧、心疾患、脳血管疾患などをもった対象者への食事療法の具体的方法を身につける。		

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	健康と医療	臨床薬理学	臨床で用いられている薬物の体内動態や有害反応などの薬理学的基礎知識として、薬効と個人差、各種薬剤の薬理作用と薬物相互作用と障害、薬物の管理作用機序、副作用（有害作用）、投与上の注意点を学ぶとともに、薬物療法の目的、効果的にかつ安全に薬物を用いた疾病の治療、予防、検査を行うための基礎的な知識を習得する。また薬による医療事故（誤薬、混合禁忌・飲み合わせなど）防止に必要な基本事項および薬に関する法令と管理について学習する。 また、最新の治療薬、漢方薬、薬品の一般名のみでなく商品名、治療量、投薬方法などについて、患者に安全に薬物の投与ができるためには薬理学の知識を確実に学ぶ。	
		臨床病態学	疾患の概念、成因、臨床症状、各疾患の基本的診断基準（検査所見）および治療法、予後ならびに看護上での注意点を具体的な症例を踏まえ学習する。疾患に対する深い理解を得ることにより、専門基礎分野で学ぶ解剖生理学などの知識と専門分野で学ぶ看護学の知識とを円滑に統合し、臨床における疾病の理解にとどまらず、患者への援助を行う際の根拠を明らかにできることをねらいとする。	
		微生物学	微生物やウイルスの構造や病理について学習する。細菌がヒトに病気を起こす一方、ヒトにとってはなくてはならない存在である理由や感染症から身を守る免疫系の基礎および消毒や滅菌・抗菌薬の概念、さらに感染症の原因微生物について網羅して学ぶ。特に病原体の構造としてウイルスと細菌の違いや、各病原体の特徴などについて正確に学習する。また日頃から報道される感染症や予防接種などに関する社会的問題に関心をもち、自ら考え、解決への道筋を提起できるよう学習する。 （オムニバス方式/全15回） （67田爪正氣/8回） 病原菌の構造、免疫のしくみ等の講義を担当する。 （68志水恵子/7回） 感染の成立、ワクチン等の講義を担当する。	オムニバス方式
		疾病と治療 I （内科総論・全身疾患）	看護学を学ぶにあたり、医療についての理解のもとに、看護学実践の基礎となる臨床医学全般について、内科学を中心に病態生理を理解する。内科総論としては、症候論、診断、治療を学ぶ。各論として人の身体各器官系統に起こる代表的な健康障害について、疾病のメカニズム・主要症状と病態・診断・治療・合併症・予後を学ぶ。主に血液、内分泌系、消化器系、呼吸器系、腎・泌尿器系、アレルギー・膠原病・感染症の内科的治療について学習する。また、高齢社会に伴い高齢者特有の疾患について学ぶ。 （オムニバス方式全30回） （69今崎貴生/9回） 医療とは、病気の成り立ち、難治性疾患、老年の病態の講義を担当する。 （71三枝陽一/9回） 消化器疾患、代謝・内分泌疾患の講義を担当する。 （70山内貴雄/5回） 循環器疾患、免疫・アレルギー疾患の講義を担当する。 （72柴原 宏/7回） 血液疾患、腎・泌尿器疾患の講義を担当する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	健康と医療	外科学を中心に人体の生理・解剖学とその病理を理解するとともに、外科的治療のもたらす効果と障害についても学ぶ。また麻酔学・蘇生学も学びクリティカルケアについて学ぶ。特に人の身体各器官系統に起こる代表的な健康障害について、疾病のメカニズム・主要症状と病態・診断・治療・合併症・予後を学ぶ。主に消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、女性生殖器系の健康障害と外科的治療について学習する。 （オムニバス方式/全30回） （73高野靖悟/9回） 外科総論、血液疾患の講義を担当する。 （74保刈岳雄/19回） 消化器疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患、循環器疾患の講義を担当する。 （79大野勉/2回） 女性生殖器の疾患の講義を担当する。	オムニバス方式
		人の身体各器官系統すなわち運動系器官、神経系器官、感覚系器官に起こる代表的な健康障害について、臨床医学の各領域で、解剖・生理と正常の機能を学ぶ。またそれらの疾病におけるメカニズム・主要症状と病態・診断・治療・合併症・予後およびリハビリテーション、社会福祉資源の活用についても学ぶ。 （オムニバス方式/全30回） （75梅沢武彦/15回） 中枢・末梢神経疾患、感覚器系疾患の講義を担当する。 （76松久孝行/15回） 筋・骨系疾患の講義を担当する。	オムニバス方式
		人間の成長発達プロセスを医学的事象をもとに学習する。特に周産期（妊娠・分娩・産褥期）にある女性の身体的変化とそれに伴う心理的变化を科学的根拠に基づき学習する。また正常逸脱したハイリスク妊産婦や産科特有疾患の原因とそのメカニズム、検査方法、最新の治療方法などを学習する。 （オムニバス方式/全15回） （77吉原一/5回） 異常妊娠、異常分娩と産科救急、異常産褥の講義を担当する。 （78野田芳人/7回） 発生と分化、生殖機能と内分泌、妊娠の成立、正常妊娠経過と妊婦診察、胎児の発育評価と産婦の診察、正常分娩経過、正常産褥経過、産科における今日の問題の講義を担当する。 （79大野勉/3回） 合併症妊娠、産婦人科検査法、不妊症検査法と最新治療の講義を担当する。	オムニバス方式
		人間の成長発達プロセスを医学的事象をもとに学習する。特に胎芽・胎児期から小児・学童期、思春期までの子どもの成長・発達そして発達プロセスを学習する。また正常逸脱した小児期特有の疾患について、その原因とメカニズム、検査方法、最新の治療法などを学習する。	
		生物学的モデルとしての脳と精神のつながり、人間の精神現象と精神症状の特徴並びに統合失調症や気分障害などの精神疾患に関する病態・治療、予後等の基礎的知識について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部 看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 看護の基本	看護学概論	看護学の最初の入り口として看護と看護学に関する基本的知識と考え方を広く教授する。主に、看護とは何か、看護の歴史的変遷、看護の概念と実践の基本的考え方、看護活動の場と保健医療システム、専門職としての看護と教育等について学習する。また、看護学の初学者として、現時点での看護および看護学に関する自らの考えや展望をもつこと、後に続く看護専門科目を学ぶことの動機づけとなるように教授する。	
	看護理論	看護現象と看護の関係について理解を深めるために、理論あるいは看護理論とは何であるのか、看護理論はどのように開発されてきたのか、理論開発の背景や源泉、看護の基礎となる諸理論の概要や特徴を理解し、理論に裏付けられた現象の捉え方や判断基準、対象との関係の持ち方を学習する。また、看護行為の選択に看護理論がどのように関与しているか、看護理論を看護実践に活用するとはどういうことか、看護過程の展開および実践へ活用できるよう学習する。 （オムニバス方式全8回） （1安藤郁子/4回） 看護理論とは、ヘンダーソン、ロイ、まとめの講義を担当する。 （11堀良子/1回） ナイチンゲール、ウィーデンバックの講義を担当する。 （6松尾真規子/1回） ペプロロー、トラベルビー、オランダの講義を担当する。 （8高橋泉/1回） レイニンガー、ワトソンの講義を担当する。 （4杵淵恵美子/1回） オレムの講義を担当する。	オムニバス方式
	看護援助論	日常生活行動を援助するための基礎的な看護援助方法について学ぶ。看護師が対象者の生活行動を援助するためには、正しい知識と観察に基づく分析力と判断力、そして具体的な看護援助技術の習得が必要になる。看護師が対象者個々の健康状態に応じた援助を実施できるよう、この科目では日常生活行動への具体的なエビデンスに基づいた援助を実践するための基本的な知識を養うことをねらいとする。 （オムニバス方式全15回） （11堀良子/2回） コミュニケーション、感染予防に関する講義を担当する。 （3菊地由美/8回） 快適な環境、休息と睡眠、身体の清潔、食事と栄養、排泄に関する講義を担当する。 （1安藤郁子/4回） 観察と測定、ボディメカニクスに関する講義を担当する。 （23門脇淳子/1回） 活動・移動と移送の講義を担当する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 看護の 基本	生活援助技術	看護援助論で学習した知識を基に、対象者の個別性や健康状態に応じた日常生活援助を実施できるよう、適応幅の広いかつ基本的な生活行動援助の方法の習得する。1)観察と測定 2)ボディメカニクス 3)滅菌物と汚染物の取り扱い・感染予防 4)快適な環境 5)休息と睡眠 6)移動と移送 7)身体の清潔 8)食事と栄養 9)排泄の援助について、科学的根拠に基づいた技術を習得する。 （オムニバス方式/全30回） ③菊地由美/2回 環境、休息と睡眠、身体の清潔、食事と栄養、排泄 （11堀良子/1回） 感染予防と無菌操作 （1安藤郁子/1回） 観察と測定、ボディメカニクス （23門脇淳子/1回） 活動・移動と移送 （11堀良子、1安藤郁子、③菊地由美、23門脇淳子/25回）（共同） 実技演習で5ベッドを1名の教員が担当し指導する。	オムニバス方式・ 共同（一部）
	フィジカルアセスメント	看護の対象となる人々の身体・精神・社会的側面を総合的にアセスメントするための基礎知識と考え方を学習する。対象者の健康状態を把握するための呼吸、循環、神経、消化器、筋骨格系の観察の方法（physical examination：視診、触診、打診、聴診）および日常生活行動に関わる心理・社会的側面のアセスメントの視点と方法を学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） ③菊地由美/5回 フィジカルアセスメントとは、呼吸器、循環器系、消化器系の講義とphysical examination （1安藤郁子/5回） 中枢神経系、感覚器系・末梢神経系、筋骨格系、の講義とphysical examination心理社会的側面のアセスメント （1安藤郁子、③菊地由美、23門脇淳子/5回）（共同） 実技演習では5ベッドを1名の教員が担当し指導する。	オムニバス方式・ 共同（一部）
	診療・治療援助技術	検査・処置・治療を受ける対象のニーズを理解し、治療・処置・検査が安全・安楽にかつ正確に実施されるための基礎的な知識と技術を身につける。治療や処置・検査における看護師の役割を知り、正確な検査データを得るための検体の採取および取扱い方法、効果的で安全な薬物療法が正確で安全に行われ、インシデント・アクシデントを予防するための知識と技術を身につける。また、対象の気持ちに近づき苦痛や不安を最小にするための看護師の役割を学習する。 （オムニバス方式/全30回） （1安藤郁子/10回） 治療・処置・検査における看護師の役割、正しい検体採取の方法、与薬における看護師の役割、与薬の実際に関する講義と演習を担当する。 （11堀良子/2回） 無菌的な検体採取の方法に関する講義と演習を担当する。 ③菊地由美/1回） 酸素療法、吸引に関する講義と演習を担当する。 （11堀良子、1安藤郁子、③菊地由美、23門脇淳子/17回）（共同） 実技演習では5ベッドを1名の教員が担当し指導する。	オムニバス方式・ 共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	看護の基本	看護の対象である人を患者を統合的に捉え、身体的・精神的・社会的側面から理論を用いて総合的に理解し、対象の抱えている健康上の課題を明らかにし、問題の解決に向けた問題解決技法を体系的に学習する。看護理論を理解し、実践に活用する方法としてアセスメント、診断、計画立案、実施、評価の一連のプロセスを紙上事例および模擬患者を用いて学習する。 （オムニバス方式/全15回） （1安藤郁子/6回） 事例をもとに看護過程の展開の実際に関する講義と演習を担当する。 （1安藤郁子、③菊地由美、23門脇淳子/9回）（共同） 演習部分について6グループを担当し指導する。	オムニバス方式・共同（一部）	
	ライフステージと看護	母性看護学Ⅰ	女性の生涯に渡る健康をリプロダクティブヘルスの観点からとらえ、女性のライフステージ各期における健康の保持・増進、疾病予防について学び、看護の必要性と役割を理解する。また、看護学における母性看護学の位置づけ、母性看護の概念、母性看護の変遷と現況について学ぶ。さらに、女性の健康に影響を与える家族・地域・文化・宗教など様々な因子について学び、女性の性と生殖に関する健康を多面的に理解する。	
		母性看護学Ⅱ	女性のライフステージの中でも特にマタニティサイクルに焦点を当て、妊娠・分娩・産褥各期にある女性、胎児・新生児および家族に対する看護を学ぶ。妊娠・分娩・産褥各期にある女性や胎児・新生児の変化を多面的に捉え、異常を予防し健康を促進する視点から看護を学ぶ。また、新しい家族の誕生により変化する家族関係や家族の成長を理解し、良好な家族関係を構築するための支援を学ぶ。さらに、マタニティサイクルにある女性への看護を実践するためのアセスメント技術の習得と看護過程の展開方法を学習する。 （オムニバス方式/全30回） （4杵淵恵美子/6回） 妊娠期の看護 （19水野真希/9回） 産褥期・新生児期の看護 （④高山奈美/3回） 分娩期の看護を講義 （4杵淵恵美子、19水野真希、④高山奈美、9豊田淑恵/12回） （共同） 看護過程の展開演習、母性看護技術の演習を担当し指導する。	オムニバス方式・共同（一部）
		小児看護学Ⅰ	多様化している現代において、子どもが健やかにこころと身体を育てていくことができるような援助を行うために、小児看護の理念、各発達段階における子どもの身体・心理・社会的特徴とその影響因子、発達の評価、家族の特徴、子どもと家族を取り巻く環境と社会の変化等を学び、小児看護の基礎となる考え方を学習する。また、健康に育つための日常生活の世話の原則と方法を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ライフステージと看護	<p>さまざまな健康レベルにある子どもと家族が体験している状況に対して適切な援助を行うために、病気や入院が子どもと家族に及ぼす影響、子どものフィジカルアセスメント、子どもによくみられる症状、さまざまな状況および健康レベルにある子どもと家族への援助など基礎的な知識・援助方法を習得する。また、事例を用いた看護過程をとおして子どもや家族の抱えている問題・課題の解決に必要な思考を身につけるとともに、主体的にものごとに取り組み姿勢や自己洞察力を培い、小児看護の果たす役割を理解する。</p> <p>（オムニバス方式/全30回） （8高橋泉/7回）</p> <p>病気や入院が子どもと家族に及ぼす影響、フィジカルアセスメント、障害、ハイリスク新生児の子どもと家族への援助、外来看護について講義と演習を指導する。 （20秋田由美/5回）</p> <p>慢性状態、悪性疾患の子どもと家族への援助について講義と演習を指導する。 （33弓気田美香/6回）</p> <p>子どもによくみられる症状や先天的な健康障害、特殊な状況にある子どもと家族への援助について講義と演習を指導する。 （8高橋泉、②山口明子、20秋田由美、33弓気田美香/12回） （共同）</p> <p>看護過程および小児看護技術演習を担当し指導する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	成人看護学 I （概論）	<p>ライフサイクルにおける成人各期の身体的、精神的、社会的な特徴を総合的に理解し、成人期にある対象の疾病の予防、健康の回復過程に沿った支援、終末期支援を考え、成人看護学の目的と役割、看護方法について学ぶ。加齢に伴う変化や生活習慣病の動向と疾病構造との相互関係を理解し、生活習慣病予防のための社会システムの機能、関係法規について学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （3風岡たま代/9回）</p> <p>対象の理解、成人の生活と健康問題、成人の生活と保健・医療・福祉システムの講義を担当する。 （6小林優子/6回）</p> <p>成人看護の主要概念、家族支援の講義を担当する。</p>	オムニバス方式
	成人看護学 II （急性期）	<p>急性発症あるいは慢性疾患の急性増悪により救急処置や集中治療管理を必要とする人や周術期にある人の特徴を理解するために必要な理論、概念を学ぶ。その上で、主要な疾患の急性期の病態と検査、処置、治療に沿った看護援助を学ぶ。事例を活用し、看護過程を展開しながら、苦痛の緩和、合併症の予防、回復の促進のための適切な看護を具体的に考えるとともに、急性期に必要な看護援助についてその原理やしくみを理解し、安全安楽な実施方法を学ぶ。それにより、救急処置や集中治療管理を必要とする人や周術期にある人をより深く理解し、苦痛緩和の重要性や、生命維持や合併症予防に関わる看護技術の安全かつ確実な実践の重要性を認識する。</p> <p>（オムニバス方式/全30回） （6小林優子/6回）</p> <p>直腸がん、乳がん他の周手術期看護の講義を担当する。 （28山本摂子/8回）</p> <p>急性期看護の特徴、肺がん、くも膜下出血の周手術期看護の講義を担当する。 （29上野桂/4回）</p> <p>胆石症の周手術期看護、救急看護の講義を担当する。 （3風岡たま代、6小林優子、16長嶋祐子、13奥井良子、25近藤浩子、28山本摂子、29上野桂/12回）（共同）</p> <p>看護過程演習では1～2グループを1名の教員が担当し指導する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部 看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 ライフステージと看護	成人看護学Ⅲ (慢性期)	成人期に起こりやすい疾患や障害のうち、慢性経過をたどり、生活上のサポートや生涯にわたって生活のコントロールを必要とする対象への看護を学ぶ。国民の死因統計上の課題となる疾患、慢性難治性疾患、あるいは事故などで身体機能を喪失した対象をとりあげ、対象のセルフケア能力を高める支援、家族へのサポート、社会的支援システムなどを含めた援助方法(援助技術含む)について学習する。慢性経過をたどり終末を迎えた対象の支援では、がんをとりあげ、全人的苦痛を緩和するための支援、終末期の充実した生活のありかたを学習する。 (オムニバス方式/全30回) (3風岡たま代/4回) 弁膜症、不整脈の慢性期の講義を担当する。 (16長嶋祐子/10回) 肝炎、潰瘍性大腸炎、リウマチ等慢性病、終末期の講義を担当する。 (13奥井良子/4回) 糖尿病、慢性腎疾患の講義を担当する。 (25近藤浩子/2回) 白血病の講義を担当する。 (3風岡たま代、16長嶋祐子、13奥井良子、6小林優子、25近藤浩子、28山本摂子、29上野桂/10回) (共同) 実技および看護過程の演習では1～2グループを1名の教員が担当し指導する。	オムニバス方式・共同(一部)
	老年看護学Ⅰ	高齢期にある対象者の身体・精神・心理・社会的な特徴を理解し、健康問題や生活障害に対する援助方法の概要を学修する。また、高齢者をとりまく社会状況と社会制度について基礎的な知識を得て、社会システムの構築という視点で高齢者ケアを考える視点を学習する。	
	老年看護学Ⅱ	健康障害や生活障害を持つ高齢者への看護実践のために、学んだ知識を統合しながら、アセスメントから実施・評価に至る老年看護の看護過程を展開する方法を学ぶ。また、科学的根拠と高齢期の対象者の状況理解に基づいて、臨床看護実践で必要とされる基本的な看護技術について学習する。 (オムニバス方式/全30回) (①小林小百合/10回) 老年期看護における看護実践の特徴、看護過程の講義を担当する。 (⑩松戸典文/3回) 栄養・排泄障害・睡眠と活動のアセスメントとケアの講義を担当する。 (⑦村田友紀子/3回) 呼吸機能障害への援助、清潔・整容行動のアセスメント、メディカルフットケアの講義を担当する。 (①小林小百合、⑦村田友紀子、⑩松戸典文、⑨武田藍/14回) (共同) 看護過程、高齢者の清潔援助技術演習を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部 看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 看護の統合	精神看護学Ⅰ	精神に障害を抱えた人を、バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの多角的視点から理解を深める。また、あらゆるライフステージにおける心の問題やメンタルヘルスについて考えるのと同時に、精神に障害を持った人を支えるための看護について学ぶ。精神保健医療福祉の歴史の変遷、現在の地域精神保健活動、精神科リハビリテーションについての知識を獲得し、精神の健康保持増進について総合的に学習する。	
	精神看護学Ⅱ	精神疾患の病因、症状、治療を理解した上で、精神障害者への援助方法の基本および看護について学ぶ。また、精神看護の基本である対人関係や治療的コミュニケーションスキルをプロセスレコードやロールプレイなどの具体的な看護技術を通じて習得すると同時に、セルフマネジメント方法についても学ぶ。セルフケア看護モデルを使い、精神障害者のアセスメント方法ならびに個別的な看護の実際について学習する。 （オムニバス方式/全30回） ⑤畠山卓也/11回） 統合失調症、うつ病・双極性障害、不安障害、心的外傷後ストレス障害、アルコール依存症、摂食障害、性同一性障害、電気けいれん療法他に伴う看護の講義を担当する。 ⑥松尾真規子/12回） 発達障害、検査とアセスメント、薬物療法と看護リハビリプログラム、家族支援、精神科訪問看護、プロセスレコードの講義を担当する。 ⑤畠山卓也、⑥松尾真規子/7回）（共同） 看護理論と看護過程の演習を指導する。	オムニバス方式・共同（一部）
	在宅看護学Ⅰ	在宅看護は療養者と家族を一つの単位として、地域での支援体制のもとに看護をしていくことが重要である。本科目では、健康問題を持ちながら在宅で生活する人々とその家族を理解し、対象者の生活の質の向上を目指した看護を実践するために必要な基礎知識と基本的な考え方について学び、在宅ケアを支える地域包括ケアシステムについて理解する。	
	在宅看護学Ⅱ	在宅で特殊な医療機器を使用しながら療養生活を送る対象者が増加しており、専門職として高度な知識と技術、判断力が求められている。本科目では対象となる人々のクオリティ・オブ・ライフを向上させるために、対象者の抱える課題を解決するための計画の立て方や在宅看護ケア提供に必要な技術を習得する。また、在宅療養に必要な医療機器の基本的な操作方法や管理方法および療養者や家族への指導方法について学習する。 （オムニバス方式/全30回） ⑦關優美子/3回） 訪問看護に必要な基本技術の講義を担当する。 ⑩畠山とも子/2回） 在宅療養者と家族の支援の役割の講義を担当する。 ⑦關優美子、⑩畠山とも子、⑩宮本さとみ/25回）（共同） 在宅看護の展開方法、医療処置を必要とする在宅療養者と家族への支援の演習を1～2グループを1名の教員が担当し指導する。	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部 看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	看 護 の 統 合	地域看護学概論	地域看護学の理念、地域看護の歴史、地域看護活動を考えるにあたり、必要な理論であるプライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーションについて学習する。また地域で看護職が活動する主な場である行政機関、産業、学校、地域包括支援センターにおける活動の対象や特徴および場の特徴などの実態を学習する。	
		公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護活動の基本概念などについて学習する。また、地域・集団を対象とした健康ニーズをアセスメントするための技術である地域診断について学習する。さらに、地域・集団のニーズを解決するための看護職の技術である保健指導として家庭訪問、健康相談、健康教育、地区組織活動について習得する。 （オムニバス方式/全8回） （15武澤千尋/5回） 公衆衛生看護の理念、保健指導の講義、地区診断に関する講義、地区診断の演習を担当する。 （15武澤千尋、⑧池田絹代/3回）（共同） 地区診断の演習を共同で担当する。	オムニバス方式・ 共同(一部)
		地域看護活動論	地域社会の中で生活する人々のライフステージや社会構造の変化など特性を踏まえた人々の健康課題と法律や制度について理解し、健康課題を解決するために看護職が行う家族支援・保健指導、セルフヘルプグループへの支援方法について学習する。また、保健活動における、保健・医療・福祉の様々な職種による連携のあり方と看護師もしくは保健師の役割について理解し、個人・家族・集団・組織・コミュニティを対象とした地域看護活動の基本的な方法と考え方を学習する。 （オムニバス方式/全15回） （15武澤千尋/11回） 地域における個人・家族・集団・組織・コミュニティを対象とした地域看護活動の基本的な方法と考え方、成人保健、感染症保健に関する講義を担当する。 （4杵淵恵美子/1回） 母子保健の課題について病院と地域の連携の講義を担当する。 （①小林小百合/1回） 地域における高齢者保健活動の実際と課題および高齢者虐待の定義と実態の講義を担当する。 （8高橋泉/1回） 小児保健障害児について病院と地域の連携の講義を担当する。 （⑥松尾真規子/1回） 精神障害者について病院と地域の連携についての講義を担当する。	オムニバス方式
		公衆衛生看護技術論	保健師活動の基本となる地域診断について既存の資料や地区踏査などから情報収集、アセスメントから健康課題をあげ、課題に対する計画策定、評価という一連の流れについて実習予定地域を対象に行う。さらに、あげられた課題について実際に行われている保健活動を考察し、プレゼンテーションを行う。また、公衆衛生看護活動における看護技術である保健指導のうち健康相談、家庭訪問、健康教育について講義および事例を用いた看護展開とロールプレイにより習得し、公衆衛生看護学実習へつなげる。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部 看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	看護の統合	学校保健活動論	学校保健の定義と意義、対象、歴史、学校保健制度とシステムと法体系について理解する。児童・生徒および学校における不登校やいじめ、アレルギー疾患、薬物乱用防止など現状の課題について理解する。また、学校保健を推進する養護教諭の職務と役割、保健室の機能について理解し、健康診断や感染症予防などにおける活動と学校保健における健康課題の解決方法・技術について学習する。さらに、障害児のための教育の現状と具体的な支援体制について理解する。	
		産業保健活動論	産業保健における看護活動の定義と意義、歴史的発展と経緯、法体系を理解する。とくに労働衛生の基本である3管理である健康管理、作業環境管理、作業管理と総括管理と労働衛生教育について理解する。さらに、職場の状況をアセスメントするために必要な視点と健康課題に対する個人・集団・組織への支援方法（保健指導、健康教育、健康づくり）および、活動上の留意点（安全配慮義務、個人情報保護、地域支援機関、多職種・多機関連携）などの概要を学ぶ。	
		公衆衛生看護管理論	公衆衛生看護活動における保健師の管理的な機能としての基礎的な知識を理解するとともに、情報管理、組織・運営管理、人材育成、予算管理の具体的な実践方法を学ぶ。さらに、感染症や災害などに対する危機管理について段階に応じた保健師の役割や活動について理解する。また、実習地域の実習を通して行った地域診断より把握した健康課題を解決するために必要な社会資源や保健事業をあげ、さらに必要な活動・事業の計画と予算を含む地域資源開発や保健計画策定について考える。 （オムニバス方式/全8回） （15武澤千尋/4回） 公衆衛生看護管理の実践方法、危機管理に関する講義と地域診断からの事業の計画立案の方法を指導する。 （15武澤千尋、⑧池田絹代、30大高のぶえ/4回）（共同） 地域診断からの事業の計画方法を担当する。	オムニバス方式・共同(一部)
		家族看護学	家族および家族看護学の基礎理論をもとに、社会システムの中でひとつの単位として家族を理解することを学ぶ。また、家族の主体性を尊重したセルフケア機能の向上を目指す看護の役割について理解する。それらの学習を通して、患者および家族のQOLの向上を目指した支援において、家族を一つの単位としてとらえて看護することの意義を理解する。	
		感染看護学	感染予防の意義や感染予防システムについて学び、感染予防活動における看護の役割について理解する。また免疫不全・易感染患者、HIV/AIDS患者、化学療法・造血細胞移植を受ける患者など感染リスクの高い患者の看護、感染症患者の看護、さらに在宅における感染対策や小児看護領域における感染対策などについて学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	看護の統合	健康と食事	生活習慣病と呼ばれる肥満症、糖尿病、メタボリックシンドローム、脂質異常症、高血圧症、慢性腎臓症（CKD）などの予防やこれらの症状や病態、治療法に対応した食事・栄養管理は、疾病の進行や合併症、再発防止につながり、対象となる人々がより健康的な生活を送るために重要である。この科目では、臨床栄養学をもとに看護の視点から、症状改善や維持、健康な人に対する疾病予防のための食事・栄養管理について学生自身が治療食を調理し試食を体験することで、対象となる人々を理解し、自立・自律した食生活を送ることができるよう支援の在り方、方法を学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） ⑩松戸典文/7回 肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常、高血圧、慢性腎不全の病態、症状、合併症および再発防止と食事の関連、栄養管理における看護者の役割（NST）についてについて講義する。 （49横瀬富美子/5回） 栄養のアセスメント、疾患別栄養管理と臨床での食事指導に関する事例について講義を担当する。 ⑩松戸典文、49横瀬富美子、38西村一弘/3回（共同） 治療食の献立作成、調理、支援方法の演習を担当する。	オムニバス方式・共同（一部）
		チーム医療	医療ケアとチーム医療の概念を知り、チームの構成員が担う役割や他の専門職種への理解を深めることで、職種間のコミュニケーションの重要性を知り、自らの職種の役割、責任を考えることができるようになることを目的とする。チーム医療を担うメディカルスタッフをゲストスピーカーとして招き、チーム医療のシステム・そのあり方、メディカルスタッフ各々の役割を学習し、対象となる人々の健康上の課題および目標を共有することの重要性、メディカルスタッフの緻密な連携・協働の必要性を認識し、チーム医療を実践する基礎的知識を身につける。	共同
		医療安全	医療における安全管理の理論を理解するとともに、臨床現場および在宅看護における安全対策の取り組みを知り、医療安全に関する考え方、社会・医療施設における医療安全のシステム、リスク発生の原理とヒューマンエラーについてを理解する。また、安全で信頼される医療を提供するための行政の取り組み、医療チームの一員としての行動について学習する。さらに実際のケアともない発生するインシデント、事故事例を通して事故後の対応を学ぶ。また事例を通して看護業務上の危険と防止策について臨床現場でのリスク管理を学ぶ。これらの学習を通して看護職の法的規定を再確認し、医療の不確実性と医療の質について考える。	
臨地実習	基礎看護学実習 I	病院で行われている看護の実践活動に参加し、日常生活援助の実際を看護師とともに体験することにより、看護の目的、看護の対象、看護の場におけるコミュニケーション、看護の役割と機能を理解する。病院の組織、機能、看護部の機能を概観し、医療チームメンバーとしての看護の役割を学ぶ。実習での体験を通し、看護を学ぶために必要な基本的態度や姿勢を身につけ、看護を学ぶための基本的な姿勢、看護専門職としての責任を考え、看護学生としての今後の学習課題を明確にする。	共同	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 臨地実習	基礎看護学実習Ⅱ	看護の対象が健康上の問題を解決するための看護の方法を体験を通して学び、患者との援助関係を築く能力、問題解決思考に基づいた看護過程を展開できる能力、日常生活援助を実施・評価する基礎的能力を養う。受け持ち患者と援助を通し、よりよい関係性を構築できるコミュニケーション能力を学習する。また、健康障害が患者の行動や日常生活にどのような影響を及ぼしているかをアセスメントし、必要な援助を考え、計画に基づいた具体的な援助を実施・評価する方法を学習する。	共同
	母性看護学実習	妊産褥婦および胎児期を含む新生児とその家族の身体的・心理的・社会的特性を理解する。また、母性看護学の講義での学びを臨床現場で体験的に学び、母性看護学領域における看護の実際を学ぶ。必要な看護を実践するための基礎的知識・母性看護特有の技術と態度を学ぶ。特に実習を通して、母性とは何か、家族になること、親になることとは何かについて考える。また周産期看護の実践に向けウェルネス視点と問題解決思考の双方から妊産褥婦および新生児とその家族の健康保持、増進を援助できるよう学習する。	共同
	小児看護学実習	さまざまな健康レベル・発達段階にある子どもとその家族に適切な看護を展開するために、乳児、幼児、学童期にある対象の成長・発達とその家族の身体的・心理的・社会的特性を理解する。また、看護過程の展開を通して個別性を捉え、健康障害をもつ子どもとその家族に対する健康の回復、苦痛の緩和のための看護および健康教育の方法を中心に体験し学習を深める。これらの実践を通して、子どもとその家族を取り巻く保健医療チームの一員であることを自覚し、小児看護に求められる知識、技術、態度を学ぶ。	共同
	成人看護学急性期実習	急性期にある患者や取り巻く人々の特性を理解し、看護過程の展開を通して慢性期にある患者への看護を実践できる基礎的能力を身につける。急性期にある患者の受け持ち、急性期の身体変化や回復過程に応じた援助の方法を学び、危機的状況にある患者とその家族への看護の方法を学習する。また、自己の看護観の確立に向けて、実施した看護を振り返り自己の学習課題を明らかにする。実習を通して、保健医療チームの一員であることを自覚し、学生として責任のある行動をとることができるようになることをねらいとする。	共同
	成人看護学慢性期実習	慢性疾患を抱えて生活する患者や取り巻く人々の特性を理解し、看護過程の展開を通して慢性期にある患者への看護を実践できる基礎的能力を身につける。慢性期にある患者を受け持ち、健康の回復や急性増悪の予防のための援助と、多職種との連携で患者を支援するためのヘルスケアシステムを理解する。また、自己の看護観の確立に向けて、実施した看護を振り返り自己の学習課題を明らかにする。実習を通して、保健医療チームの一員であることを自覚し、学生として責任のある行動をとることができるようになることをねらいとする。	共同
	老年看護学実習Ⅰ	地域で生活する高齢者の発達段階と加齢現象を理解する。また、施設内で行われているさまざまなサービスや活動を通して、高齢者の活動の実際および医療・保健・福祉の連携を理解する。地域で生活する高齢者の自立・自律支援に関わる援助を指導者とともに実施することを通して、保健・医療・福祉チームの一員として、施設における看護職の役割、連携の実際、高齢者の地域での生活を支える社会資源の活用方法について学習する。実習を通して高齢者への関心を高め、高齢者を個人として尊重する態度を身につける。	共同
	老年看護学実習Ⅱ	健康障害により施設内で療養生活を送る老年期にある対象や取り巻く人々の特性を理解し、看護過程の展開を通して老年期にある対象への看護が実践できる基礎的能力を身につける。療養施設で療養生活を送る高齢者の健康上の問題解決に必要なアセスメントをし、計画に基づいた具体的な援助の実施を通し、ある患者とその家族への看護の方法を学習する。保健医療チームの一員として果たす役割を学習する。自己の看護観の確立に向けて、実施した看護を振り返り自己の学習課題を明らかにする。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	臨 地 実 習	精神看護学実習	精神の健康問題により日常生活や対人関係に困難を抱える患者の特性を理解し、看護過程の展開を通して、精神の健康問題を抱える患者への看護が実践できる基礎的能力を身につける。受け持ち患者との相互関係を中心に、対人関係における他者理解・自己理解を深め、治療的関係の構築および自己活用の方法について学ぶ。また、多職種とのかかわりを通し、精神医療の中でのチーム連携と看護の役割を学習し、精神的健康の維持・回復のための諸制度や支援のあり方を知る。	共同
		在宅看護学実習	健康上の問題を抱え、地域で療養生活をする対象や取り巻く人々の特性を理解し、看護過程の展開を通して、在宅で療養している対象への看護が実践できる基礎的能力を身につける。在宅療養者の援助を指導者とともに実施することを通して、保健・医療・福祉チームの一員として、在宅における看護職の役割、連携の実際、在宅でその人らしく療養生活を継続するために必要な在宅ケアシステムおよび社会資源の活用方法について学習する。	共同
		看護学統合実習	臨地実習の集大成として学び、また卒業後看護職として臨地の場においてリアリティショックを少なくし、チームメンバーとして学生自らが能動的に実習計画を立案し、実践する学習の場とする。そのため本科目では、看護チームの活動に参加し、既習の知識・技術・態度を統合し、医療チームの一員として、看護職や他職種と協働・連携について学び、医療チームの一員として看護実践力を高める。実習を通して、看護の本質を考え、看護専門職としての役割、責務、態度について学習を深める。4年間で学習した知識・技術・態度を統合し、さらなる看護実践能力の向上を図り、看護職者として必要な倫理的責務の理解を深める。	共同
		学校・産業保健実習	学校もしくは職域における安全衛生管理体制を把握し、養護教諭および産業看護職の役割を理解する。また、従業員もしくは児童・生徒の健康課題を把握するために、職場および学校環境について職場巡視もしくは学校内巡視をし、健康診断データ、健康相談の内容や従業員および児童・生徒へのインタビューなどにより情報収集を行いアセスメントをする。あげられた健康課題を解決するために行われている健康支援活動の企画・実施・評価から産業看護職および養護教諭の活動と他職種との連携などについて学習する。	共同
		公衆衛生看護学実習	実習施設（市町村保健センター・地域包括支援センター）が管轄する地域について、地域診断であげられた地域の特徴や健康課題を捉えながら、地域に暮らすあらゆる年代、様々な健康レベルの人々への看護活動を個人・集団・地域の視点からの展開方法や課題の解決方法について、体験を通して理解を深める。また家庭訪問や健康相談などの個人への支援から、個人のニーズを把握し、集団・組織へとつなげていく支援システム構築（高齢者、乳幼児、障がい者など）や公衆衛生看護における管理機能について理解する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部 看護学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	看 護 の 発 展	看護管理学	看護の対象者である人々により良いサービスを提供するために必要な人的資源、物的資源、財的資源の重要性、これらの資源を有効に活用する組織の仕組み、維持・管理する方法を学習する。また、チームの一員として、組織内での看護チームとの連携・協働および多職種との連携・協働の重要性を理解し、対象者へ提供する「ケア」「看護サービス」のマネジメントに必要な制度や政策を学ぶ。これらの学習を通し、自己のキャリア発達に活かすことができる知識を身につける。 （オムニバス方式/全8回） （85本館教子/4回） 看護管理とは、組織と看護単位の構成、病院組織と看護組織、医療・看護の質保証、の講義を担当する。 （86堤妙子/2回） 看護管理のスキル、看護とキャリア開発の講義を担当する。 （87久永加代子/2回） リスクマネジメント、病院と職員教育の講義を担当する。	オムニバス方式
		国際保健	国際社会と日本社会の違いを知るとともに、日本が可能な国際保健への貢献について考え、国際保健における日本の役割を知る。また、日本との比較による海外の保健医療について検討し、今後の日本の保健医療のあり方について考える。世界ではどのような健康問題が起こっているのか、グローバルな視点と社会傾向に伴って、国内で起こる健康問題にはどのような影響が現れるのかについて考えることで、国際保健の視点を学ぶ。国際看護における異文化理解の重要性、発展途上国の健康問題、看護活動などに対する理解を深める。	
		災害看護学	災害が日常生活や人間の生命に及ぼす影響、初期動作の意義、被災現場の特性に応じた医療や看護活動について実際例をもとに学習する。また、災害救護に関連する諸制度、支援システム、社会資源、さらに赤十字の救護活動の実際について学び、災害予防、災害時の対応、災害復旧および復興において、看護職が果たす役割に対する理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部 看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 看護の発展	看護研究Ⅰ	<p>本科目は、実践科学である看護学の発展と看護の質の向上を目指して、科学的方法を基盤にした研究の原理と方法を学習する。具体的な学習内容としては、看護学における研究の意義を知り、研究のプロセスと研究における倫理を理解する。次いで、研究課題に関する論文を系統的に収集し、その論文をクリティークする。その文献検討に基づき自分が取り組む研究課題を明確にしておく。この過程を個人およびグループで学習する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （4杵淵恵美子/5回）</p> <p>看護研究とは、看護研究の変遷、重要性、特徴、研究計画書の意義、看護研究Ⅱへの導入の講義を担当する。</p> <p>①小林小百合/3回） 質的アプローチ、質的研究方法の特徴、研究デザインの種類と特徴の講義を担当する。 （6小林優子/1回） 量的アプローチ、データ収集と分析の講義を担当する。 （8高橋泉/1回） 文献検討の意義、文献検索の資料と活用法、文献整理の方法等の講義を担当する。 （9豊田淑恵/1回） 倫理的配慮の必要性、インフォームドコンセント、倫理委員会での審査の講義を担当する。 ①小林小百合、8高橋泉/2回）（共同） 文献（質的）クリティークについて講義とグループワークの指導を担当する。 （6小林優子、7關優美子/2回）（共同） 文献（量的）クリティークについて講義とグループワークの指導を担当する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	看護研究Ⅱ	<p>本科目は、「看護研究Ⅰ」において学習した知識やアカデミック・スキルズをもとに、学生各自のテーマに基づき研究計画書の作成までの過程を学ぶ。研究計画書は学会発表形式に則して発表の場を設けるのでまとめる力が身につく。また在校生、実習施設の指導者たちへの参加を呼びかけ討議する場を設けることにより、研究への意欲を高め、かつ研究姿勢を身につける。</p>	共同

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校は、収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人駒澤学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
駒沢女子大学				駒沢女子大学				
人文学部								
日本文化学科	60	3年次 10	260		0	—	0	平成30年4月学生募集停止
国際文化学科	120	3年次 20	520		0	—	0	平成30年4月学生募集停止
人間関係学科	60	—	240		0	—	0	平成30年4月学生募集停止
心理学科	90	—	360		0	—	0	平成30年4月学生募集停止
住空間デザイン学科	60	—	240		0	—	0	平成30年4月学生募集停止
メディア表現学科	60	—	240		0	—	0	平成30年4月学生募集停止
				※3年次編入学定員は、平成32年4月学生募集停止				
				人間総合学群				
				学部の設置(届出)				
				人間文化学類	170	3年次 20	720	
				観光文化学類	60	10	260	
				心理学類	80	—	320	
				住空間デザイン学類	60	—	240	
人間健康学部				人間健康学部				
健康栄養学科	80	—	320		80	—	320	
看護学部				看護学部				
				学部の設置(認可申請)				
				看護学科	80	—	320	
計				530	3年次 30	2,180		
駒沢女子大学大学院				駒沢女子大学大学院				
人文科学研究科				人文科学研究科				
仏教文化専攻	5	—	10		5	—	10	
臨床心理学専攻	15	—	30		15	—	30	
計				20	—	40		
駒沢女子短期大学				駒沢女子短期大学				
保育科	130	—	260		130	—	260	
計				130	—	260		